



認定特定非営利活動法人

# ぶどうのいえだより

編集・発行:大隈 廣 〒113-0032 東京都文京区弥生 1-3-12  
TEL 03-3818-3362 FAX 03-3818-3392



No.74 2017年 夏

ぶどうのいえとの関わりは長くなりました。開設時からボランティアとして活動していますが、ほかに当時の運営委員会や後援会理事会では書記として陪席しました。2000年にNPO法人になり新しい理事会が発足して、再度書記になり、2016年からは理事になりました。

理事会とボランティア会の関係ですが、現場で各曜日ごとに活動するボランティアが月に一度話し合う場がボランティア会です。現在、理事16名のうち9名がボランティアを兼ねています。

NPO法人になる以前には、理事会と現場の乖離というか、ボランティア会の要望が理事会に届かないという声が上がったことがありますが、現在は同じ課題を両方の会で取り上げる場合に時間差が少なく、問題の解決が早いと思います。年6回の理事会への出席率も上がりました。

さて、我が身を振り返ると、どちらの立場に重きを置いているのか。もちろんどちらも目指す所は同じですが、相反する面もあります。理事は施設運営の経済的責任を負うものです。ボランティアは日々利用者に接し不便がないか気を配り、場合によっては設備の更新等金額の張るものを要求しなければなりません。

私は、やはり日々の受付や電話対応などの業務を大切に思っています。利用される方々への挨拶、「行ってらっしゃい」、「お帰りなさい」は最も丁寧にと心掛けています。でもいつもの仕事ですから、慣れでこなしていることもあります。それで時々、原点を振り返ってみなければと反省します。

それは19歳の時の入院体験です。二ヶ月間、母は病院近くの叔父の家に泊まり込んで毎日通ってくれました。母が留守の間は祖母が家事をして父や妹たちの世話をしてくれたそうです。叔父と叔母の協力もありました。今から思えば恵まれた闘病生活でした。

母は病棟廊下の隅の小さな台所で、料理を作っていました。回復期は食欲が出て、病院食では足りなかったからです。その時のお皿を今も大切に持っています。

## 私の活動

私自身はたくさん食べるほどに回復したのですが、仲良くなった同世代の女の子二人は、一人が手術後に亡くなり、もう一人は手術も出来ない状態でした。それまで家庭と学校しか知らない世間知らずでしたから、病院の中に暮らす子ども達や付き添いの家族を目にしたこと、そして生きていたくて

も叶わない子がいると知ったことは大きな衝撃でした。退院の時、これからは自分一人だけのために生きてはいけなかったと考えました。時の流れの中で忘れたことはありませんでしたが、実際に何ができるか、どのような活動をしたのか、と自問するばかりでした。

「ぶどうのいえ」開設の話聞いたとき、ここが私の活動の場だと思いました。これが原点で、若い日の決心をぶどうのいえで活かせればと思って活動を続けています。利用者に接するとき、あの二人の思いを心の中で重ね合わせていきたいと思うのです。

(ぶどうのいえ理事)

堀内 紀子

## 報告

## 施設訪問 I NPO 法人 「こどものちから」

堀内 昭

こどもの日の前日、国立がんセンター中央病院の中にある「こどものちから」という部屋を訪ねました。病棟の「小児待合室」の場を借りて NPO 法人が運営している子どもの遊び場です。

入院している病児に面会できるのは中学生以上ですから、親が連れてくる兄弟児は「小児待合室」という殺風景な部屋でぼつんと待つしかありませんでした。井上り子理事長はそこを楽しい場所に変身させたのです。理事長さんとボランティアの方々にお話を伺いました。活動は月曜、木曜、第2土曜、第4日曜の11時から14時までです。

理事長さんは三男を亡くされたあと、家族相談士やおもちゃスペシャリストなどの資格を取り、6年間一人で活動され、3年前 NPO 法人となったそうです。壁には手作りのポスターや飾りがたくさんあって、とてもわくわくするような雰囲気でした。おもちゃもたくさんありました。どんなに散らかしても自由。ボランティアさんと一緒に作業もできます。スタッフがいない時間帯にはハサミなどはしまっておく、と聞きました。

病気の子どもの兄弟児の問題はかねてから気になっていました。ぶどうのいえでも過去に「リラの家」などの働きを聞き、検討課題になりました。親御さん、とくに母親は病気の子にかかりきりになりがちです。兄弟はどうしても我慢を強いられます。寂しさが性格に影響することもあります。その子達に何かできないか。ただ、我々の施設ではいろいろな面で保育は無理との結論になりました。ですから、病院内にこのような場があるのは嬉しいことです。その日も女の子が人形遊びやブロックなどで慣れた感じで遊んでいましたが、初めて来た子だとか。

井上氏の話では、病児はカードやプレゼントをもらう機会が多いけど、兄弟にはそのおこぼれしかない。だから家で待つ兄弟にもカードを送ったりするそうです。カードは子ども達、親たち、ボランティアさん達みんなで手作り。カードをもらった子ども達はとても喜ぶとか。病児や親子で参加するイベントも盛んです。パンフレットには楽しそうな写真が載っています。

今のところ、この部屋は同じ階の病棟に関係する子どもしか利用出来ません。感染症が出た場合に辿れるようにするためだとか。将来的には他の階や外来などにも場所を作れば、というのが理事長さんの夢だそうです。様々な企画を立てて前向きに頑張る理事長さんに感銘を受けました。この NPO 活動を様々な人が応援しています。まだ小さい組織なので支援者を増やす手伝いが出来ればと思いました。

こどもの日を前に有意義な一日でした。

(ぶどうのいえ顧問)



## 報告

## 施設訪問Ⅱ 「病気の子どもと家族を応援する遊びのボランティア」

西田 恵子

『認定 NPO 法人 病気の子ども支援ネット 遊びのボランティア』  
この団体は通称ガラガラドンと呼ばれ、26年の歴史と実績があります。

偶然の出会いで坂上和子理事長にお会いし、この方の壮絶な生き方を  
知り、この方が理事長をしている NPO は“きっと力強く温かい働き  
をしているに違いない”という印象を受けました。名刺を頂いたので  
この NPO を調べてみたら、そのすばらしい働きに驚きました。

さっそく 1 日体験ボランティアを願い出てお話を聞くだけでなく、  
体験もさせていただきました。

その日のボランティアは 8 人。保育士、学校の先生、製薬会社の方、デイサービスの方々です。  
午後 1 時半に 1 階の受付前で待機、揃って 6 階病棟に行き、丁寧に手を洗い、エプロンを付けて、  
看護師さんから子どもの状態の申し送りを受け、拠点である学習面談室で打ち合わせをしました。

ボランティアは一人ひとりの患児の発達や、どのような遊びが良いかを考えるのです。その患  
児に寄り添う姿勢が印象的でした。そして看護師さんとボランティアの関係がきちんとしていて  
信頼されていることが感じられました。

長期入院の 3 才の男の子が“遊びのボランティア”が来てくれるのを待ち  
こがれ、病室の外で待っていました。病室での遊びはボランティアとマンツ  
ーマン。ボランティアは感染予防のガウンをつけて子どもと遊びます。  
その日は木材をボンドで付けて迷路の車庫を作り、木材の車を動かし、  
車庫入れをしたりして遊んでいました。その姿は本当に楽しそうでした。

プレイルームでは子どもの数よりボランティアの数のほうが多いのです。  
それは事故を起こさないためであると理事長から聞きました。

子どもの体調にあった遊びに対応するため、枕元で布の本・手遊びや歌遊び  
などいろいろと用意されているようです。

理事長のメールアドレスには a・so・bo の文字が入っています。  
まさに「遊びの出前」です。

土曜日の午後 2 時から 3 時半までの 90 分は、入院している子どもたち  
にとってこの時間がどれほど楽しみか、またお母さんにとって安心して用事  
を済ませられるひと時かという点で、この働きは貴重だと思いました。

認定 NPO 病気の子ども支援ネットの事業は 6 つの柱をかかげており、  
1.普及啓発 2.子どもと家族支援 3.ボランティア育成 4.コーディネイト  
5.情報提供 6.調査研究という 6 つの仕事を担当しています。他にも通院や  
報告書作成、寄付者や会員へのお礼、会計の仕事などどれも大切で、いろ  
いろな方に支えられていると言われていました。

支援事業としては、毎週土曜日の病棟訪問・個人の平日訪問・病棟イベント・在宅における支  
援事業など 4 つの事業を実施しており、昨年は併せて 87 回行い、ボランティア延べ 500 人が関  
わり、そして遊んだ子供の数は延べ 399 人だったそうです。

本当に尊い働きであると思いご紹介させていただきました。



ボランティアの皆さん



木材とボンド



おもちゃのいろいろ

(ぶどうのいえ理事)

**寄稿 1****曾祖父のこと**

ぶどうのいえには、全国各地から利用者がいらっしやいます。特に北国の方に親しみを感じるのは、父が秋田生まれ、母が道産子、私が青森生まれだからでしょう。若い頃に東北から北海道へ渡り、屯田兵としてその一生を北海道で過ごした曾祖父の物語を、この場をお借りして紹介させていただきます。

母方の曾祖父、石山松吉は江戸時代安政年間に仙台藩下級士族の家に生まれ、明治8年5月、宮城県亘理郡小堤村から北海道札幌近くの琴似村へ入植しました。これがいわゆる屯田兵が入植した最初の年で、移住は明治32年まで続きました。伊藤廣著『屯田兵村の百年』上中下巻（昭和54年北海道新聞社刊行）には、組織や生活が詳細に記載されており、巻末には諸規則、年表、名簿が載っています。当時の北海道は最果ての地。極寒の地で生き抜くために、どれほどの苦労をしたことでしょうか。21世紀の現在では想像を絶することです。

若い頃、琴似に復元されている屯田兵屋を訪れた時には様々な思いがこみ上げ、ただ立ち尽くすことしかできませんでした。曾祖父は80歳を超え、昭和初期まで生きました。一枚だけ残っている写真は娘達と一緒に写真館で撮ったもので、七女である祖母、キクも写っています。和服姿で真っ白い髭の曾祖父の目は長い年月を超え、深い眼差しで私をしっかりと見つめているように感じます。

繋がれてきた「命」に思いを馳せ、一日一日を大切に暮らしていきたいと思います。

小林陽子（木曜ボランティア）

**寄稿 2****雑感**

「ぶどうのいえ」も今年の11月で22年になります。その間の医学の進歩は目覚ましく、それにともなって利用なさる方々の日常も変化しました。開設当初は病気によっては半年一年と滞在される方が多かったのですが、最近は短期の方が多くいる傾向になっているように思います。医学のことはよく分からないのですが、20年前難病といわれた病気も治療可能になったり、更により細分化されたようにも感じます。

しかし、その時によって当然対応は違っても、「ぶどうのいえ」の理念は現在も変わりません。それは、ボランティアはあくまでも黒子で主役は子どもさんとそのご家族であること、従って第2のわが家になるようにボランティアは自分の出来ることを出来る時に参加して気配りをするということです。今はボランティアは32名います。月曜日から土曜日まで6日間、2～4名決まった日に参加しています。（通称月曜日組、火曜日組、・・・）その他、外部の方にも参加して頂いて年6回理事会を開き、対外的なこと、対内的なことを話し合う場を設けています。又、お掃除グループとして月一回第3水曜日の午前中、共通スペース・ダイニング・キッチン・廊下・階段などを徹底的に清掃して下さったり、第1日曜日には自家製のケーキを作って販売してその収益を寄付して下さる教会のケーキグループもあります。更に、会員となって毎年寄付を下さる企業、個人の方々そういう大勢の方々に支えられて「ぶどうのいえ」は歩んでいます。そしてこれからも知恵を出し合って楽しんでゆきたいと思います。

どうぞ若い方々、どんな形でもかまいません。少しボランティアにお時間を頂けたらと思っています。

金井玲子（副理事長・水曜・金曜ボランティア）

## ★ ホームページもご覧下さい！

今では、企業、大学や団体のみならず個人でも開設するほど、ホームページはお馴染みのもの、「顔」と言っても良いくらい個性的で多種多様なものになりました。

ぶどうのいえのホームページにはどんな特徴、魅力があるのでしょうか？

最初に目を引くのは、Top ページ右上のイラストです。これは、ぶどうのいえを訪れる人、帰ってくる人を迎えてくれる玄関手前のぶどう棚で、静かな雰囲気を感じられます。

アクセスマップの下には、季節や行事を反映させた写真を載せています。最近、「ボランティアのつぶやき」のコーナーを始めました。現在 20 名弱のボランティアスタッフが、交代で最近の出来事や話題を掲載しています。

「お知らせ」には、随時、ニュースをアップします。その他、「理念」、「活動報告」、「滞在施設案内」など 20 ほどのメニューには詳しい説明が載っています。

お問い合わせ両面からメール送信もできますので、どうぞご利用下さい。

ホームページ [URL:http://www.budounoie.jp/index.html](http://www.budounoie.jp/index.html)

ぶどうのいえだよりとホームページは、皆様と私たちをつなぐ大事な二大ツールです。どちらもより良いものを目指しています。どうぞお目通し下さい。

## ★ ありがとうございます

(順不同・敬称略)

森村学園福祉 OG 会 中嶋雄一 五十嵐明子 宍道多麻子 藤井野百合 テモテ教会ケーキ班 大隈廣 金本浩 宮崎なを 東松山聖ルカ教会 テモテ教会ミニバザー 堀内昭 堀内紀子 大滝留理子 柴和子 渡邊誠 大西健之 宮尾春世 本井純子 織田恵子 兼崎はるみ 佐藤武雄 大蔵浩之 目白聖公会イクスディア 鈴木公子 目白聖公会婦人会 小金井聖公会食事会 近澤淑子 石渡康弘 匿名 椎橋照子 聖路加国際大学聖ルカ礼拝堂 聖パトリック教会 池袋聖公会 練馬聖ガブリエル教会 東京聖テモテ教会 大森聖アグネス教会 目白聖公会 聖マーガレット教会 小金井聖公会 聖パウロ教会 聖愛教会 葛飾茨十字教会 東京諸聖徒教会 八王子復活教会 三光教会

(2017・4・1～2017・6・30)

## ★ ありがとうございます

(順不同・敬称略)

竹内トモ子 (バザー用品 (食器等))、 神谷まり (手芸品)、 羽深幸夫 (バザー用品タオル・石鹸・食料品)、 ダイア-イローシートキャンペーンプレゼント (食料品)、 堀 和子 (Tシャツ・食料品)、 飯島思峰子 (化粧雑貨)、 アンジー 遠藤江美子 (タオル・靴下・靴)、 関谷隆一 (紙人形・食料品)、 長内英樹 (新茶)、 樋口扶美子 (バザー用品材料・布・刺繍糸)、 長内英樹 (小玉スイカ・米・砂糖・海苔缶)、 荒川こずゑ (電子レンジ (新品))

(2017・4・1～2017・6・30)

**お知らせ 1****教区フェスティバル**

日 時：9月18日（月・祝）

10：30～

場 所：立教女学院

\* ぶどうのいえはバザールに参加、手作り品のお店を出します。

**お知らせ 2****秋の大バザー**

日 時：10月15日（日） 11：30～14：30

場 所：東京聖テモテ教会・ぶどうのいえ

まわりの木々が色づく秋、ぶどうのいえでは教会と共催でバザーを行います。  
手芸班の手作り品の販売と、ぶどうのいえ館内の見学があります。

献品は9月1日より受け付けます。なお、衣類は子供用のみです。  
どうぞよろしくお願いたします。

**お知らせ 3**

ぶどうのいえ 支援イベント

**「尾松 純子 語りの世界」**

日 時： 12月16日（土） 午後

場 所： 東京聖テモテ教会 礼拝堂

開 演： 昼の部 14：00 夜の部 17：00 （30分前に開場します）

お問合せ：ぶどうのいえイベント事務局 03（6205）5531 鶴飼 良機

**編集後記**

この夏は大雨の被害が相ついでいます。異常な高温も観測されました。  
被災された方々にお見舞い申し上げます。

残暑の中、くれぐれもお大切になさって下さい。

（編集 西田・堀内紀）

**認定 NPO 法人 ぶどうのいえ**

ホームページ <http://www.budounoie.jp/>  
E-mail [info@budounoie.jp](mailto:info@budounoie.jp)  
郵便振替口座名 特定非営利活動法人ぶどうのいえ  
郵便振替口座番号 00120-2-540161